

<比較研究>

中国語の“着”と日本語の「テイル」「テアル」の対照比較

宋 榮芬¹⁾ 王 卓²⁾

The Comparison of "着" in Chinese and 「テイル」 & 「テアル」 in Japanese

Song rongfen Wang zhuo

This thesis analyzes the relationship between “着” (zhe) in Chinese and 「テイル」 (teiru) 「テアル」 (tearu) in Japanese in terms of meaning.

“着” in Chinese has the same meanings as 「テイル」 (teiru) when it expresses “the continuity and execution of an action”. When it means “the continuity of result or state”, it can be related to both 「テイル」 (teiru) and 「テアル」 (tearu). Moreover, “着” also denotes existence. In such a case, it has two meanings. “The continuity and execution of an action” corresponds to 「テイル」 (teiru) while “the continuity of result or state” corresponds to 「テアル」 (tearu).

Also, this thesis involves analysis about the tense adverb “在” (zai) in Chinese. As a counterpart of 「テイル」 (teiru) in Japanese, it is different from “着”, which concentrates on the action being carried out. “在～着”, on the other hand, combines representations of dynamic actions and static states.

Key words : the continuity and execution of an action ; the continuity of result or state ; Dynamics; Statics

1 はじめに

日本語を勉強する際、初心者が常に戸惑いを感じるのは日本語アスペクトの「テイル」と「テアル」の用法である。つまり、継続相として、「テイル」と「テアル」は、状態の持続を表す際に、類似するところが存在している。

第二言語学習者は、第二言語を理解するために、常に母語と比べて、「適切」なものを選び、それらを第二言語に当てはめる。しか

し、それらは適切なものとは限らないのである。特にアスペクトのような文法的問題はより複雑なカテゴリーである。

本稿は、日中両言語のアスペクトの継続相に注目し、日中対照の立場から、中国語の“着”“在”と日本語の「テイル」「テアル」を比較し、その異同を明らかにする。特に状態の持続を表す中国語の“着”は日本語の「テイル」だけでなく、「テアル」の形式にも対応しているという用法に注目し、日中両言語の表現において、如何なる意味的な対応関係

1) 神戸医療福祉大学 (Kobe University of Welfare) 〒679-2217 兵庫県神崎郡福崎町高岡1966-5

2) 東北大学大学院院生 (Tohoku University)

が存在しているのかを明らかにする。

2 先行研究と問題提起

木村(2006)は、「持続」・「完了」の視点を超えて、中国語のアスペクトを分析した。論文中の「動詞接辞の“着”」の部分において、木村(2006)は“着”が「持続」を表すという従来の観点に反論し、「動詞接辞の ZHE¹ は、人や物を特定の場所に位置させる動作を意味する動詞(仮称「定位動詞」)に後接して、動作の実現の結果として人や物が特定の空間に〈存在〉する状況を表す。(中略) ZHE が、動作の結果として具体物が特定の空間に存在する状況を述べるための形式であることはもはや疑うべくもない。」と述べている。

確かに、次の例文のように、“着”は「存在」を表す。

- (1) 墙上贴着1张地图。

壁に地図が1枚貼ってある。

実際は、中国語において、次のような例文は常に使われ、“着”の無視できない使い方である。

- (2) 运动员在球场上跑着。

選手はサッカー場で走っている。

- (3) 门开着。

ドアが開いている。

(2)と(3)は、自然な文として、中国語において常に使われている。ただし、(2)と(3)における“着”の使い方は、(1)と比べるならば、「跑着(走っている)」にしても、「开着(開いている)」にしても、確かに「存在の様子」と言えるが、「存在」の意味を表すしかないとは限らない。「跑着」の主体は能動的人間であるが、人間の存在を注目すると言うより、むしろその人間の動作が持続中、進行中だと

いう見方がより適切だと考えられる。「开着」の主体は被動的なものであるが、そのもの自身の存在というより、被動状態の存続が強調されている。

また、比較する過程で、“着”と日本語のアスペクトの対応における問題が見つげられる。(1)では、中国語の「V+着」(貼着)が対応するのは、日本語の「テアル」形(貼ってある)である。一方、(2)と(3)では、中国語の「V+着」(跑着、开着)は、日本語の「テイル」形(走っている、開いている)に対応する。

つまり、中国語のアスペクト“着”は、対応している日本語のアスペクトが「テイル」と「テアル」の両形式である。何故上述の対応関係が存在しているのか。その対応の間に、何らかの意味的特徴が存在するのか。本稿は、上述の問題に注目し、分析することを試みる。

3 中国語における動詞接辞とする“着”(以下簡略“着”)

中国語の“着”については、杉村(1994)、守屋(1995)、呂(1999)などの分析がある。本論文は、呂(1999)をもとに「～着」の意味用法を整理する。中国語のアスペクト“着”は、以下の三つの基本的な機能を持っている。

- ① 動作そのものの持続・進行を表す意味。

例：运动员在球场上跑着。(選手はサッカー場で走っている。)

- ② 状態の持続を表す意味。

例：门开着。(ドアが開いている。)

- ③ 存在文に用い、ある姿で存在していることを表す意味。但し、二つのパターンがある。

(a)名詞(場所)+動詞+着+名詞(能動)

1 ZHE は、“着”の中国語のローマ字表記(通称「ピンイン」)に倣い、記される表記である。

例：长椅上坐着一对老夫妇。（老人夫婦がベンチに座っている。）

(b)名詞（場所）+動詞+着+名詞（受動）

例：墙上贴着一幅水墨画。（壁に水墨画が1枚貼ってある。）

特別なのは、上の③の意味である。「動詞+着」は、存在文において用いられる際に、動作の進行を表せるより、動作を経てから現れてきた状態の存在に注目していると思われる。

また、③「存在文に用い、ある姿で存在していることを表す意味」は、①「動作そのものの持続・進行を表す意味」と②「状態の持続を表す意味」から完全独立しているわけではなく、意味的な交差が見つけられる。つまり、「能動」「受動」の角度からみると、③(a)の例文と①の例文、③(b)の例文と②の例文の間に共通点が見つけられる。

③(a)の例文では、「老人夫婦」が「座る」という動作の能動者である。「動詞+着」の形に従い、③(a)の例文は、①に挙げられた例文と類似し、一定的な「動作の進行」の意味をも持っている。

③(b)の例文では、「水墨画」が動作主からの「貼る」という動作の受動者である。③(b)の例文は、②に挙げられた例文と類似し、対象物がある動作を経てから、結果状態に入り、「状態の持続」の意味をも持っている。

したがって、“着”は、機能③の意味の場合、存在文に用い、「存在」の意味を表すにもか

かわらず、「動作の進行」「状態の持続」も含まれている。

図で表現すると、“着”の三つの意味は、次のようになる。

図1のように、「存在」と「動作の持続・進行」の重なる部分は、③(a)の例文のようになり、「状態の持続」と重なる部分が、③(b)のようになる。ただし、二つの意味は、重なる部分があるが、完全に同じとは言えないと思われる。つまり、話し手にとって、その重なる部分を表す際に、「存在」の意味が注目され、焦点化される。

以上の分析に従い、“着”は、「動作の持続・進行」「状態の持続」「存在」の三つの意味を表す機能を果たしている。また、「存在」の意味は「状態の持続」と「動作の持続・進行」と深く関係している。

4 日本語の「テイル」と「テアル」

日本語のアスペクト「テイル」と「テアル」については、工藤（1995）、寺村（1984）、森田（1971）などの有名な研究がある。ここで、「テイル」や「テアル」の意味を簡単にまとめる。

4.1 「テイル」の意味用法

従来の研究から、「テイル」の意味用法は以下ようになる。

① 動作の進行・持続

例：ロサンゼルス空港に着いて市街の中心部にむかっているとき、感覚が**い**ぶくなった。

② 動作結果の持続

例：女があの荷物には何が**は**いっているんだらうと珍らしそうに眺めたりすると、ちょっと顔が赤くなるではないか。（動作結果の持続）

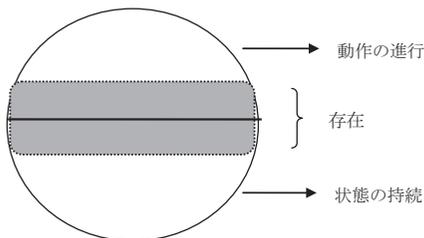


図1

③ 動作の繰り返しと経験

(a)動作の繰り返し

例：老人のこの話を、彼女はすくなくとも五十回はきいているが、やはりはじめてきくような顔をしてきいていた。

(b)経験または回想

例：ついに、水泳記録会の日がやって来た。この水泳記録会は、近隣3校の合同で行われるため、他の小学校の子も見ている。

④ 単純状態

例：ここは北平の普通の横町のように真直か、あるいは、ちょっとばかり曲がっているというのではなくて、まるで瓢箪のような形をしている。

4.2 「テアル」の意味用法

従来の研究から、「テアル」は、ある動作が終わったあとの状態を表す。また、「テイル」の表わす意味のうちの「結果の残存」「結果の継続」と類似する意味を持っている。しかし、長谷川(1997)によると、「テアル」文において、「存在文型」や「動作文型」が分けられる。

「存在文型」は、次のようになる。

(4) ブランデーはお好きで、いつもお部屋に置いてありました。

(5) 庭の左手、隣家の白壁沿いの柿の並木に、高いハッテが組んであった。

この「テアル」は、動作・行為を経てもたらされた結果、他の場所から移動して新たに出現することにより、ある場所に物が存在して、その状態が続いている事象を表す。

「動作文型」は、次のようになる。

(6) お相撲さんの頭のとっぺんのところがきれいに剃ってある。

(7) 私はもういつものように恐れなかった。こないだから考えて考えて考えぬいてある。

この「テアル」は、動作が行われたという事実が結果をともなって残るという事象を表す同時に、「何かをした」ことをさらに強調することから、「何かの準備」や「特別な意図」のためであるという意味が感じられることが多い。

4.3 「テイル」と「テアル」の意味的相違

「テイル」と「テアル」の意味的相違を説明するために、次の類似する事象を述べる例文を挙げる。

(8) テーブルにお皿が並んでいる。

(9) テーブルにお皿が並べてある。

(8)は行為そのものではなく、「並んでいる」結果に注目する表現であり、人間などの意図が含まれていない。それに対して、(9)は行為者の意図によって、お皿がどういう状態にあるかを表現したものである。つまり、「並んでいる」は、お皿の状態だけに注目しているが、「並べてある」は、状態と、その状態を引き起こした行為・行為者に注目しているため、行為者が何のためにお皿をそうしたかということについて述べられることが多い。(9)は(8)と意味的に重なる部分があるが、話し手の注目点が異なる。

その相違をもたらす原因は、自他動詞の意味的特徴と関わっていると思われる。アスペクトの面で、(8)と(9)は、両方ともある場所に物が存在して、その状態が続いている事象を表す。しかし、(8)において用いられるのは、自動詞の「並ぶ」であり、(9)において用いられるのは、他動詞の「並べる」である。また、「テアル」文における用いられる述語動詞は他動詞しかないのである。他動詞の意味原型にしたがい、他動詞文において、動作主と対象物が存在し、また、対象物は動作主からの意図的な働きかけを受けて、何らかの変化がもたらされた、ということは他動詞の核

心的な要素である。自動詞文の場合、主語としての対象物は何らかの変化が生じるのかという結果状態のみに注目していく。したがって、複合事象を表す(9)のような「テアル」文は、(8)のような「テイル」文と比べ、行為者、対象物、意図などが注目されている。

5 中国語の“着”と日本語の「テイル」「テアル」の関係

中国語の“着”の意味を日本語の「テイル」「テアル」と比較すると、多くの共通点が見つけられる。

先ず、中国語の“着”の基本的な意味のうちの「動作そのものの持続・進行」が対応する日本語との関係を見ていく。

表1

	中国語の“着”	日本語	
例文	运动员在球场上跑着	「テイル」	選手はサッカー場で走っている
		「テアル」	×
働き	動作の持続・進行	動作の持続・進行	

表1からわかるように、「動作の持続・進行」を表す際に、日本語では「テイル」だけ使われるので、同一の事象を表現する中国語の“着”は、日本語の「テイル」にしか対応しない。

次、中国語の“着”の「状態の持続」が対応する日本語の関係を見ていく。

表2

	中国語の“着”	日本語	
例文	门开着	「テイル」	ドアがひらいている
		「テアル」	ドアがひらいてある
働き	結果状態の持続	結果状態の持続	

「結果状態の持続」を表す際に、中国語の“着”は、日本語の「テイル」「テアル」の両方ともに対応できる。

日本語において、「テイル」と「テアル」は、「結果状態の持続」を表す面で、意味的に共通している。したがって、「結果状態の持続」

を表す際に、中国語の“着”は、日本語の「テイル」「テアル」の両方ともに対応できる。ただし、「テアル」は、状態と、その状態を引き起こした行為・行為者に注目しているので、行為者の意図について述べられることが多い。したがって、“着”に対応するのは、「テイル」か「テアル」か、場合によって、選択する必要がある。

最後に、中国語の“着”の「存在」の意味が対応する日本語との関係を見ていく。

表3

	中国語の“着”	日本語	
例文	I 长椅上坐着一对老年夫妇	「テイル」	I' 老人夫婦がベンチに座っている
	II 墙上贴着一幅水墨画	「テアル」	II' 壁に水墨画が1枚貼ってある
働き	存 在	「テイル」	I' 動作の持続・進行
		「テアル」	II' 存在

中国語の「I 长椅上坐着一对老夫妇」は、「I' 老人夫婦がベンチに座っている」という「テイル」文にしか対応しない。しかし、実際に意味上で微妙な違いがある。Iの中国語文はどういうところに何者又は何物が存在しているということを表す存在文（中国語の特徴的な表し方）であるが、I'は、ただ何者が何をしているという現象描写文である。したがって、日中対訳をする際に、Iの中国語文は、そのままI'の日本語文に訳せない場合が多い。必ず文脈に沿って訳さなければならない。

また、文脈の要因を除き、特に“着”の意味に着目して比べてみよう。「老年夫婦（老人夫婦）」は「坐（座る）」という動作の能動者である。「動詞+着」の基本的な意味にしたがい、Iは一定的な「動作の進行・持続」の意味をも持っている。したがって、日本語文に訳す際に、「動作の進行・持続」という面が注目され、中国語のIは日本語のI'の

「テイル」文で表現することができる。

一方、中国語の「Ⅱ墙上贴着一幅水墨画」に対応するのは、日本語の「テアル」文の「Ⅱ'壁に水墨画が1枚貼ってある」である。しかも、「存在」の意を表す際に、中国語の“着”は、日本語の「テアル」にしか対応しない。「墙上挂着一副水墨画」は、「存在」の意味を表す文として、「結果状態の持続」を表す「一副水墨画在墙上挂着」という文脈が異なる文と区別している。したがって、日中対訳の際に、中国語文の「存在」の意味を適切に日本語文で表現するために、日本語の「テアル」文のうちの「存在文型」は、意味的な面から最適である。

6 中国語の“在～着”と日本語の「テイル」の対応

以上のように、中国語のアスペクト助詞“着”と日本語の「テイル」「テアル」の対応関係について分析した。一方、動作の進行・持続に関するアスペクト表現として、中国語においては、日本語の「テアル」にかかわらず、「テイル」に対応している場合、またいくつの別の形式が存在している。以下の例文のようになる。

- (10) 明天这时候，我一定还在睡觉呢。(明日のこの時間は、僕はきっとまだ寝ているだろう。)
- (11) 他在干什么？他在吃饭。(彼は何をしているの？彼はご飯を食べている。)
- (12) 走了好一截子路，才知道天在下雨。(雨が降っているのに気づいたのは、だいぶ歩いてからだった。) (劉2006)

“在”は中国語のアスペクト副詞として、文において動作の進行や状態の持続を表す。(10)のように、“在”という副詞によって、中国語のアスペクト表現は日本語の「テイル」

構文に対応している。動作の進行や状態の持続を表す表現として、中国語の“在”は前述の“着”と類似しているが、意味上の相違が存在している。

劉(2006)の説にしたがい、“在”と“着”両者は共に中国語の不完結相として作用しているが、“在”は「過程化」の操作を表し、“着”は「状態化」の操作を表す。劉(2006)以下のように述べている。

「“在”は動的な局面をプロファイルするのに対し、“着”は静的な局面をプロファイルする。また、“在”は事態をダイナミックにエネルギーに述べるのに対し、“着”は事態を静的に沈静化して述べる。結果的に、“在”は進行相として機能することとなり、“着”は持続相として機能することとなるのである。」

前節の分析からわかるように、“着”は動作の進行や状態の持続を表すが、その①、②、③(a)(b)の意味を通して、“着”の意味は「状態の持続」に傾いている。②と③(a)(b)はいずれにしても動作結果としての状態の持続を示す。

“着”とは異なり、“在”は進行中の動作を表す表現である。“着”は話し手の静的な視点からの表現であると言うならば、“在”は話し手の動的な視点からの表現であると言える。つまり、「着」は「その動作が行われているという状態が続いている」ことを示すものに対し、「在」は「動作が発動している最中の段階にある」ことを示すものである。

したがって、動作の進行を表す日本語の「テイル」に対応する表現として、中国語の“在”は意味上でより適切であると思われる。しかし、中国語において、以下のような“在～着”形式の表現が存在している。

- (13) 他垂着头，为微弯着腰，手里执着一根长竹竿水瓢，一下又一下，哗啦哗啦，十

分迟缓的、十分用心的、在灌溉着他亲手栽的那些杜鹃花。^①（杜鹃花105-106）（彼はうつむいて少し腰を曲げ、手には竹ざおで作った長い柄のついたひしゃくを持って、自分が植えたつつじに一回ずつゆっくりと、心をこめて水をかけていた。）（劉2006）

上述の例文からわかるように、“在～着”形式も日本語の「テイル」文に対応している。劉（2006）は「“在～着”の使用により、動作主の身体の動きが、スローテンポでありながらも、力に満ちているように感じさせるためだと考えられる。それで、水をかけている動作主の動きが“十分迟缓的、十分用心的”^②すなわち非常にゆっくりでありつつも非常に心を込めているという描写と呼応させているのである。」と述べている。

“在～着”の使用は、動作の進行や状態の持続を表すだけでなく、両方の機能を利用して、“在”の動的な視点と“着”の静的な視点を融合させ、動作主の動きをより細かく表現できると思われる。ただし、中国語における“在～着”は動的な事態と静的な事態を合わせる機能を持っているが、日本語における「テイル」は、文脈の効力でも、以上の機能をもたらずかどうかという問題は興味深い。今後の課題とする。

7 おわりに

本稿は、意味的な面から、中国語の“着”と日本語の「テイル」「テアル」の対応関係を分析した。中国語の“着”は、「動作の持続・進行」を表す場合、日本語の「テイル」にしか対応しない。“着”は「結果状態の持続」を表す場合、日本語の「テイル」と「テアル」の両方ともに対応できる。“着”は「存在」

の両方ともに対応できるが、「存在」を表す“着”の二種類の意味が存在するため、それぞれ日本語の「テイル」にしか又は「テアル」にしか対応しない状況がある。

また、中国語におけるアスペクト副詞“在”に言及して、日本語の「テイル」に対応する表現として、“着”に注目されている状態の持続に対し、“在”は進行中の動作に注目し、動的な事態を示している。“在～着”は動的な事態と静的な事態を合わせる表現である。

注：①② 中国語引用文「十分迟缓的、十分用心的」というところの“的”は、実際には“地”という字になるはずであるが、原書のミスか引用者のミスかがわからないが、そのままにした。

参考文献

- 木村英樹（2006）「『持続』・『完了』の視点を超えて—北京官話における「実存相」の提案—」『日本語文法』日本語文法学会
- 工藤真由美1995『アスペクト・テンス体系とテキスト』ひつじ書房
- 杉村博文（1994）『中国語文法教室』大修館書店
- 寺村秀夫1982『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版
- 森田良行（1971）「本が置いてある」と「本を置いてある」『講座正しい日本語第5巻』明治書院
- 守屋宏則（1995）『やさしくくわしい中国語文法の基礎』東方書店
- 劉綺紋（2006）『中国語のアスペクトとモダリティ』大阪大学出版会
- 呂叔湘（1999）『現代汉语八百词 增订本』商務印書館